

ポイント

◆◆特集◆◆

★近畿圏の新たな高速道路料金について★

(国土交通省 道路局 高速道路課)

近畿圏の高速道路の料金については、社会資本整備審議会道路分科会国土幹線道路部会で議論等を経て、6月3日より新たな高速道路料金がスタートしました。

本稿では近畿圏における新たな高速道路料金について、ご紹介します。

◆◆道路法令Q&A◆◆

★道路の構造について★

(国土交通省 道路局 路政課)

道路の構造について解説する。

◆◆TOPICS◆◆

★地域の賑わいから得た収益を活用した

道路景観の維持管理のしくみづくり社会実験★

(高山市 基盤整備部 維持課)

「飛騨高山」として全国的に認知されている岐阜県高山市では日本人はもとより、現在では多くの外国人観光客が訪れる日本を代表する観光地のひとつである。ただし、観光エリアに近い駐車場周辺は賑わいがある反面、観光客と車両の輻輳があり、安全確保が課題となっている。こういった課題を改善するため、地域が設立した実行委員会が主体となって道路を利用した社会実験を実施した。

◆◆地域における道路行政に関する取組み事例◆◆

★道路協力団体について★

(九州地方整備局 道路部 道路計画第二課)

民間団体等との連携による道路管理の一層の充実を図るため、道路協力団体制度が平成28年4月に創設され、同年12月国で管理する道路において初めての道路協力団体の指定を行いました。

ここでは、道路協力団体制度の概要及び九州で道路協力団体の指定を受けた、福岡市、長崎県雲仙市、大分市、宮崎県宮崎市～日南市の4団体について紹介致します。……………

……………

★大阪府における「地域維持管理連携プラットフォーム」の取組みについて★

(大阪府 都市整備部 事業管理室 事業企画課)

府や市町村の維持管理業務においては、予算、技術力、人材の不足の懸念や、各自治体による人材育成に限界があるため、自治体間の連携が求められています。また、維持管理業務の効率化や、持続可能な維持管理の仕組みの構築が急務であることなどから、維持管理における課題解決に向けた新たな連携スキームとして、「地域維持管理連携プラットフォーム」を構築しました。本稿では、当該取組みについてご紹介します。

……………

★鉄道沿線まちづくり協議会の取組みについて★

～広域連携型コンパクトシティの形成を目指して～

(大阪府 高石市 政策推進部 総合政策課)

急激な人口減少や高齢化を背景に、都市サービスの持続性の低下が懸念されるなか、鉄道沿線の地方公共団体や交通事業者が連携してまちづくりに取り組むべく、泉北地域鉄道沿線まちづくり協議会を設立しました。本稿では、協議会において作成した「広域的な立地適正化の方針」などの取組み状況についてご紹介いたします。

◆◆編集後記◆◆

お正月に実家へ帰省した際、ふと目にした母校の生涯学習講座案内の中に、憧れていた“パイプオルガン”講座を見つけました。早速、この4月から休日を利用して受講しています。初めて目にしたのは高校の入学式の際、講堂の中に足を進めると、ステージ上に“パイプオルガン”が備えられていました。まるで講堂と一体化しているかのように大きくそびえ立ち、多数のパイプが天井まで伸びている姿に圧倒され、講堂全体に響き渡る透き通った音色がとても魅力的に感じられました。また、幼少期からピアノを習っていたこともあり、いつかは弾いてみたいと憧れていた楽器でしたが、演奏することが許されていたのは音楽科の生徒だけでした。卒業してから2×年、生涯学習講座で演奏する機会を得ることができやる気に満ちています。

受講コースは、月に1度の授業が年末まで続きます。世界的に有名なパイプオルガン奏者を講師として、丁寧な個人レッスンを受けることができるため、初心者の方でも飽きずに継続することができそうです。現段階では、教会やコンサートホールに様々な“パイプオルガン”を見学に行き、その歴史や音色作りの仕組みを学ぶところまで進みました。

“パイプオルガン”は、教会の礼拝や結婚式の賛美歌で演奏されることが多く、1度はその姿を目にしたことがある方もいるのではないのでしょうか。その起源は、古代ギリシャ時代にはすでに原型となる楽器が存在していたと言われていました。その後、音色が幻想的であることから、神様に捧げる音楽を奏でる楽器として教会に設置されるようになります。そのため、宗教的なモチーフの彫刻や絵の装飾をほどこしたものが多く、まるで美術品のように美しいものが作られるようになりました。

“パイプオルガン”は、数百本から大きいものでは数千本ものパイプを使って音を出す楽器で、1台でオーケストラのような「多彩な音色」が奏でられることを特長としています。音を出すために必要なのは、①鍵盤（手・足）、②パイプ、③ストップ（音質・強弱を変化させるレバー）の3つです。鍵盤とストップを組み合わせ、加圧した空気をパイプに送りこむことで様々な音色を作ることができます。しかしながら、1本のパイプからは、1つの音しか出すことができないことから、多彩な音色を奏でるためにはパイプの数の多さが決め手となります。母校の“パイプオルガン”は、4段の鍵盤と3,986本のパイプ、67個のストップがあり、国内でも最大級の大きさを誇ります。ひとたび演奏が始まると、講堂全体に力強くダイナミックな音色が響き渡ります。

いよいよ、次回から実際に鍵盤に触れる授業が始まります。自分のテーマ曲を決めて練習に取り組み、最終回では受講生がお互いの演奏を発表する予定となっています。私が選んだのは、「トッカータとフーガ二短調」です。とても有名なパイプオルガン曲で、鍵盤だけでなく複数のストップを駆使した速弾きと、雄大なメロディーが繰り返される難しい曲です。ご存知の方にとっては、無謀すぎる挑戦と思われるかもしれませんが、下手でもいい！と自分に言い聞かせ、演奏に気持を込めて挑みたいと思っています。(K)